

国語プリント
No. ()

☺

年 組 番 名 前

配布日 月 日 曜

「みずすまし」は何の象徴か？

【序】

表現において「象徴」という手段があることを以前学んだ。さて、文学作品では「象徴」は多用される。「みずすまし」という詩においても、単に虫である「みずすまし」の生態を表現したものでないということは一読して分かる。

では、作者である吉野弘は「みずすまし」のことを描くことで、何を表現しようとしたのか？今回はこれを探っていく、「象徴」がどのようなもののかをとらえよう。

象徴には、以前に学んだ「鳩」や「校章」のような、ほぼそれしかないという周知のものと、この詩のように、表現者（作者）が意図したものがある。だからこの詩の場合は、受取手（読者）によってどう受け取ったかは違っていていいはずである。あなたはこの詩から何を受け取ったのかを表現することによって、象徴を学んでいく。

【課題】この詩を描き直してみよう

「みずすまし」が別のものであるとすると、その他の表現も別の表現に書き換えられるはずだ。表現者が意図したものを受取手が想像して、新たに描き直すのが課題である。

詩の各行に番号をふる（1～21）
それぞれの表現が何を意味しているのか、想像し、書き換える。

一滴の水銀のように やや重く

水銀……なぜ水銀を例にとっているのか、石ころではいけないのか、「水銀」を用いた意味を考え、水銀の形態・性質と「みずすまし」とを関連づけ、表現する。

一滴の水銀のように、黒くつやつやして光り、思ったよりも重そうに「

ノートへの記入の仕方

(ア)ノートの枠外に、いつもの通り、日付と年組番名前を記入する。

(イ)一行目にタイトルを記入する。「みずすまし」は何を象徴しているのか。「タイトル」

(ウ)詩の各行(1~21)に対応させて書く。各行の書き出しはノートの行の1マス目に詩の行番号を記入して書き始めること。

(タイトル)

(タイトル)

(工) 詩の各行について、なるべく40字以内(2行以内)で表現する。

オーバーしてもかまわないが、なるべく30字以内に納める。

・ 評価

オリジナリティーとサティスファクション
(納得 なるほど)

その他

各人が1作品を提出になるが、不明な点があれば、周りと相談したり、共同で考えたりして作品を完成させること。